

課程 全日制

教科	芸術	科目	総合音楽	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書									

1. 科目の目標と評価の観点

目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
評価の観点	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするためにその技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
学習状況の観察	◎			○	出席状況・授業態度
演奏練習	◎	○	○		歌唱・器楽全体練習
実技テスト	○	◎	◎		声楽演奏・器楽演奏（個人またはグループ）
提出物	◎			◎	鑑賞の記録等

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に出席して、主体的な音楽表現や授業態度を望みます。
- ・楽器や用具を大切に扱うこと。
- ・授業に対する取り組みの姿勢、表現力、課題の到達、理解度を総合的に判断します。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予 定 時数
一 学 期	4 月 5 月 6 月 7 月	・ 楽典、楽譜や音楽の仕組みについて (楽譜を見て歌うことに慣れ、読譜力をつける) ・ 日本や外国の代表的な作品、歌曲の世界 (アカペラ曲、オペラアリア、ミュージカル挿入曲等を 歌い、表現を工夫する) ・ 鑑賞「日本の響き、世界の民族音楽」 (日本の和楽器や世界の諸民族の音楽に親しむ)	実技テスト	30
二 学 期	8 月 9 月 10 月 11 月	・ 器楽演習、コードネームについて (ギター等、楽器の基礎的な奏法を習得し器楽に親し む心を育てる) ・ アンサンブルの楽しみ (お互いの音を聴き合い、全体の響きや曲想にあった 音楽表現を工夫する) ・ 鑑賞「舞台芸術の世界」 (ミュージカルやオペラ、歌舞伎の特徴を理解し、文化 的・歴史的背景に関心をもつ)	実技テスト	55
三 学 期	12 月 1 月 2 月 3 月	・ 鑑賞「西洋音楽の歴史と作曲家」 (楽曲の歴史的背景や作曲家の生涯について学ぶ) ・ コンサートを開こう (任意の曲を個人、グループで演奏して発表する)	実技発表会 (総合)	20

合計 105 時間

課程 全日制

教科	芸術	科目	総合美術	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書		なし（担当教員が用意したプリント・資料・副読本を使用）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	色彩・構図・デッサンを中心にデザインの学習をする。ビジュアルデザイン・空間デザイン・プロダクトデザインの学習に発展させ、造形的な見方・考え方を働かせ、工業や産業の中の美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付ける。 (2)美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができるようにする。 (3)視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。 (4)環境と造形との調和について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。 (5)情報の視覚化及び伝達、交流、共有について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。 (6)美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。 (7)造形表現やデザインの可能性を追求する態度を養う。 (8)表現及び鑑賞に関する造形的な思考力、判断力、表現力等を養う。			
	① 美術への関心・意欲・態度	② 発想や構想の能力	③ 創造的な技能	④ 分析・鑑賞の能力
評価の観点	工業や産業に関する美術に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	工業や産業に関する美術を幅広く理解し、その機能や効果を創造的に味わっている。

2. 評価方法 ※表中の◎は観点の中でより重視するところです。※考査は行わない。

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
学習状況の観察	◎				授業態度・持ち物・丁寧さ・自己評価・提出期限
作品		◎	◎		発想力・構想の能力・創造的な技能が発揮できたか。課題の意図に沿っているか。完成度を高められたか。
分析・鑑賞文				◎	作者の意図を理解して分析・鑑賞できたか。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

私語・離席・遅刻・忘れ物をせず授業に集中する。用具を正しく大切に扱う。身の回りの物をよく観察する。課題に沿った作品にする。作品の完成度を高める。他人の作品に手を加えない。授業終了の翌週金曜日までに課題を提出する。欠席等により未完成の場合は補習に来る。

制作進行状況により所要時数・課題内容を変更する場合がある。写真の印刷や資料などを各自で準備する。年間実習費は、美術Ⅰ履修者は約4000円、美術Ⅱ履修者は約6000円。

4. 年間学習計画
間

合計 105 時

	月	学習の内容		教科書範囲	時数
一 学 期	4	オリエンテーション	「美術と産業・生活の中の 美術・S（科学）T（技 術）E（工学）A（芸 術）M（数学）」		1
	5	色彩①	「光と色・色の表示・色彩心 理・色彩調和・ファッション・ インテリア」		29
	6				
二 学 期	7	鉛筆デッサン	「コンクリート（直方体）・ ガラス（球体）・紙（円 柱）・質感・幾何形体・3点 構成・」		12
	8				
	9	色彩②	「色の表示・色彩調和・ビ ジュアル・インテリア・景 観色彩・ユニバーサルデザ イン」		16
	10	構図			4
三 学 期	11	ビジュアルデザイン	「レイアウト・書体」 「ポスター・パンフレッ ト・情報の視覚化・伝達・ マーケティング・コンセプ ト・キャラクター・キャッ チコピー製本・（食・観 光）」		23
	12	プロダクトデザイン	「椅子・道具・人体比率・ 伝統工芸・模型」		18
	1	著作権 まとめ	「知的財産権・肖像権」 「作品返却・保管方法」		1 1